EU Trends

発表日:2018 年 10 月 29 日(月)

動き出すポスト･メルケル

～二大政党が州議会選で事実上の連敗～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理(TEL:03-5221-4527)

◇ ドイツの大連立政権に加わる各党は、今月行われた２州の州議会選で相次いで歴史的な低支持率に沈んだ。大連立政権発足後の政策停滞、難民政策や諜報機関トップ更迭を巡る連立政権内の不協和音、新鮮味の乏しい政権の顔ぶれが有権者の支持離れを招いている。州議会選の結果を受け、すぐさま再選挙やメルケル首相の退陣につながる訳ではない。だが、メルケル首相の責任を問う声も日増しに高まっている。12月の党大会でメルケル首相が党首の座を譲るようなら、後継首相候補の下で来年にも議会の解散・総選挙の可能性が浮上する。

28日に行われたドイツのヘッセン州議会選は、メルケル首相が率いるキリスト教民主同盟（ＣＤＵ）が第１党の座を守ったが、2013年の前回選挙：38.3%→今回（現地時間の29日１時55分時点の開票速報）：27.0%と大幅に支持を失った（図表１）。これは同州でのＣＤＵの得票率としては52年振りの低水準。連邦政府で連立政権に加わる社会民主党（ＳＰＤ）も前回：30.7%→今回：19.8%と大幅に支持を失い、２週間前のバイエルン州議会選同様に（詳細は10月15日付けレポート「ドイツの政治安定に綻び　～バイエルン州議会選で非主流派政党が躍進～」を参照されたい）、大連立政権に加わる各党にとって厳しい選挙結果となった。二大政党への不満票の受け皿となったのが、ヘッセン州議会でＣＤＵと連立を組む環境政党・同盟90/緑の党（Grüne）＜前回：11.1%→今回：19.8%＞と、同州で初の議席獲得となる右派政党・ドイツのための選択肢（ＡｆＤ）＜前回：4.1%→今回：13.1%＞の２党で、これはバイエルン州議会選とほぼ同じ構図（バイエルン州の場合には、同州のみで活動する自由の投票者＜ＦＷ＞も保守系不満票の受け皿となった）。

（図表１）ドイツ・ヘッセン州議会選挙の結果

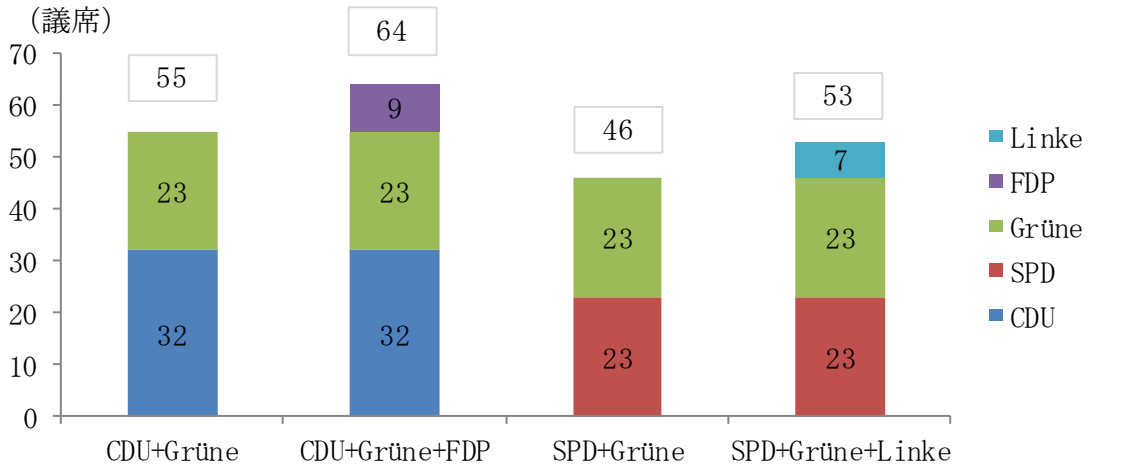
	前回選挙 (2013/9/15)		今回選挙 (2018/10/14)	
	得票率	議席	得票率	議席
キリスト教民主同盟（CDU）	38.3	47	27.0	32
社会民主党（SPD）	30.7	37	19.8	23
同盟90/緑の党（Grüne）	11.1	14	19.8	23
ドイツのための選択肢（AfD）	4.1	－	13.1	16
自由民主党（FDP）	5.0	6	7.5	9
左翼党（Die Linke）	5.2	6	6.3	7
	－	110	－	110

注：今回選挙は現地時間29日1時55分時点の開票速報
出所：Die Zeit Onlineより第一生命経済研究所が作成

連立協議の難航の末に今年３月に誕生した３政党・２会派による大連立政権は、政権発足後に目立った成果を上げれず、メルケル首相を筆頭に新鮮味の乏しい政権の顔ぶれ、難民政策や諜報機関トップの更迭を巡る連立内の対立も有権者の支持離れにつながっている。二大政党による政権運営に不満を持つ層のうち、難民問題や治安に関心を持つ有権者が主にＡｆＤに流れ、同党の極端な主張に共感できない有権者が緑の党の支持に回った。ヘッセン州はドイツ最大の金融都市フランクフルトを抱え、単身世帯の増加と人口流入、政府による公共住宅の供給不足、英国のＥＵ離脱を睨んだ金融機関の移転、緩和的な金融政策などから、近年、住宅価格の上昇が顕著となっている。住宅不足問題も選挙戦の大きな争点の１つであった。また、大手自動車メーカーによる排ガス不正問題や都市部へのディーゼル車の走行規制問題なども、緑の党にとっての追い風となった模様だ。

筆者は先週（バイエルン州議会選後、ヘッセン州議会選前）、ＥＵ離脱協議の重要争点となっている北アイルランド国境、財政運営を巡ってＥＵと対立するイタリアなどとともに、難民問題や州議会選の結果に揺れるドイツ・バイエルン州を訪問した。バイエルンでは現職の政治家、政治系財団関係者、メルケル首相にも近い著名政治学者などと面会する機会を得たが、ヘッセン州議会選の結果次第では、メルケル首相の進退問題に発展しかねないとの声が数多く聞かれた。バイエルン州議会選はＣＤＵの姉妹政党で大連立にも参加するキリスト教社会同盟（ＣＳＵ）にとって激震となったが、ヘッセン州議会選はＣＤＵが大幅に支持を失うことが予想されていたほか、選挙結果次第では緑の党がＳＰＤと左翼党（Linke）とともに左派連立政権（党のイメージカラーから「緑・赤・赤」連立とも呼ばれる）を発足する可能性もあった。ＣＤＵが重要な州議会選で下野する事態となれば、メルケル首相の責任論も浮上しかねない状況だった。投票速報の結果からは、左派連立政権の誕生は難しく、ＣＤＵと緑の党にリベラル政党・自由民主党（ＦＤＰ）を加えたジャマイカ連立（党のイメージカラーが同国の国旗の配色と似ていることからこう呼ばれる）の誕生が有力視されている（図表２）。政権交代が回避されそうな点は数少ないポジティブな要素だが、二大政党の関係者からはメルケル疲れやこのまま大連立を続けることができないとの声も聞かれる。

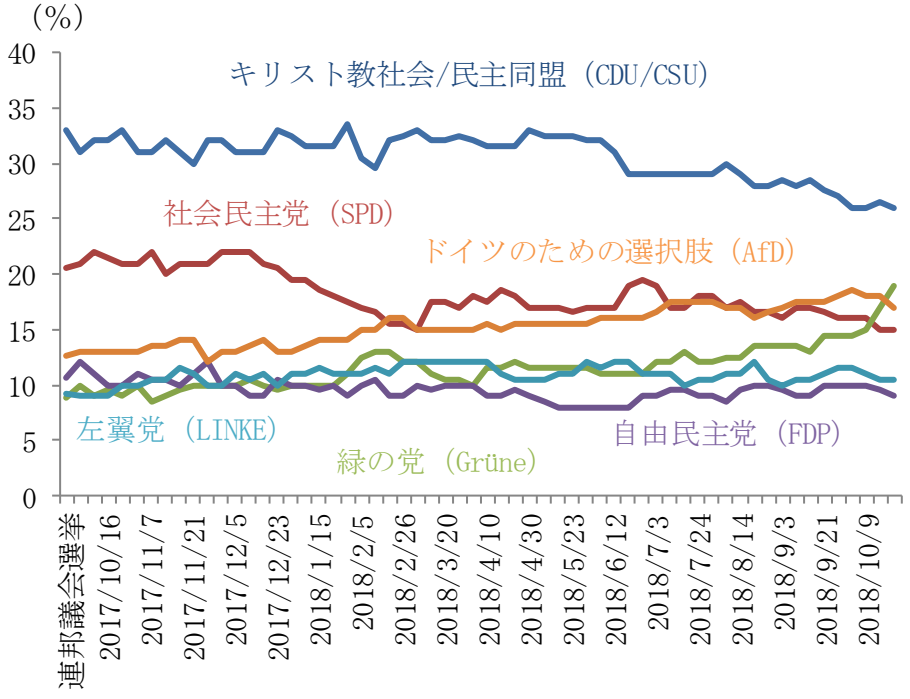
（図表２）ドイツ・ヘッセン州議会選の連立別予想獲得議席



注：１）現地時間29日1時55分時点の開票速報に基づく予想議席
　　２）定数110、過半数は56
出所：Die Zeit Onlineより第一生命経済研究所が作成

連邦レベルの各種の世論調査では、今回の２州の議会選同様に、ＣＤＵとＳＰＤが昨年秋の連邦議会選から一段と支持を失う一方で、緑の党とＡｆＤが大きく支持を伸ばしている（図表３）。ドイツ政界では早期の再選挙がＡｆＤの更なる躍進につながることを警戒する声が多いほか、支持率低迷が続く二大政党の関係者は現時点での再選挙を回避したい意向とみられる。連邦議会の解散権を持つシュタインマイヤー大統領（ＳＰＤ出身）は、政治安定を重視してＳＰＤの大連立参加を後押しした人物で、政局不安定化を望んでいない。州議会選の連敗ですぐさま再選挙やメルケル首相の退陣につながる可能性は低いが、筆者が面談した政治関係者の間では現政権がこのまま2021年秋までの議会任期を全うすることは難しいとの意見が大勢を占めた。ＣＤＵは12月に党大会を予定しており、今のところメルケル首相は党首再任を目指している。だが、党内からはメルケル首相の党首続投に否定的な声も出始めており、ひとまず首相を続投しつつ、党首を別の人物に任せる案も浮上している。これは事実上の後継首相を睨んだ権限委譲を意味し、新たな首相候補の下で来年にも議会の解散・総選挙を行うとの見方も聞かれた。後継首相候補として度々名前が上がったのは、カレンバウアー党事務総長、スパーン保険相、ラシェット・ノルトライン＝ヴェストファーレン州首相など。州議会選の結果を受け、ポスト・メルケルに向けた動きが本格化する可能性がある。

（図表３）ドイツ連邦議会選挙の支持率調査



出所：INSA資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。